

**最近の状況:** 東アジア・太平洋（EAP）地域の経済成長は、2024年早期に力強さを増した。中国では、輸出が力強く拡大したため、わずかながら成長した。インフラと製造業への投資は堅調で、インフラ投資は公共支出に後押しされた。対照的に、不動産投資は同セクターの継続的な低迷により減少し続けた。当局は、不動産セクターを支援するために、開発業者への流動性供給の促進や資金の借り手に対する頭金要件の軽減などの追加措置を実施した。消費支出は2023年の力強い拡大の後、消費者心理が陰り、2024年早期は低迷した。

EAPの他地域では、財の貿易の世界的低迷により2023年に落ち込んだ輸出が回復し始めたため、2024年早期に一部の国で成長が加速した。さらに、製造業の活動も改善の兆しを見せた。観光業に依存する国の一部では、世界的な観光業の回復による恩恵を引き続き受けた。低インフレに支えられ、民間消費の伸びは地域全体で堅調に推移した。しかし、金融政策引き締めの影響が遅れて出たことや、世界や国内の情勢における不確実性の高まりにより、投資は低迷した。

**見通し:** EAP の成長率は、中国の減速が他の大国の成長率上昇を相殺するため、今年は4.8%に低下すると予測される。その後、継続する中国の成長鈍化が、EAP内の他地域のわずかな回復を帳消しするため、EAP全体の成長率は引き続き低下、2025年には4.2%、2026年には4.1%になると予測される。1月の予測と比較すると、EAPの成長率は2024年に0.3ポイント上回り、2025年には0.2ポイント下回る。

中国では、2024年の成長率は4.8%に鈍化する見通しだが、1月の予測よりは0.3ポイント高い。これは主に、2024年早期の経済活動、特に輸出が予想以上に堅調だったことによる。消費は2023年に力強く拡大したが、今年は消費者心理の低迷により、大幅な減速が予想される。全体的な投資の伸びは引き続き低調となる。政府支出の下支えがあるものの不動産部門の弱さが続くためだ。同部門は、支援措置で支えられ、ようやく年末に安定すると見込まれる。同国全体の成長率はさらに鈍化し、2025年には4.1%（投資見通しの悪化を主因として1月の予測より0.2ポイント低い）となり、2026年は生産性の低下、投資の弱体化、人口動態の逆風の高まりにより潜在成長率が圧迫され、4.0%になると予測される。

中国を除く東アジア・太平洋地域では、昨年はこちら数年の平均以下の成長だったが、今年は経済活動が4.6%まで回復すると予測されている。成長は輸出と産業活動に恩恵をもたらす世界的な財貿易の増加に支えられ、中国の成長鈍化の影響を相殺するとみられる。経済活動の加速は、タイやベトナムなど輸出志向の最も強い経済圏で特に顕著になると予想される。観光業のパンデミックからの回復は世界的にはほぼ終了したが、経済活動の再開が遅れている東アジア・太平洋地域の一部の国、特に中国では回復が続いている。これにより、カンボジアやタイなど一部の国におけるサービス輸出の促進が見込まれる。2025年には成長率が4.7%にわずかながら上昇し、貿易を世界的に手掛ける企業と地域全体の成長率が潜在成長率に近づくにつれて、2026年には4.8%に達すると予想される。

**リスク:** 地域の経済見通しが上振れるか下振れするかは1月以降やや均衡してきたものの、依然として下振れリスクの方に傾いている。同リスクには、世界各地での武力紛争の激化と地政学的緊張の高まり、貿易政策のさらなる分断、中国の予想を下回る成長と、それが地域全体に悪影響を及ぼすことなどがある。想定よりも厳しい金融状況や、気候変動による異常気象（特に熱帯暴風雨や洪水）の頻発などの自然災害も、予想よりも成長が鈍化する原因となり得る。対照的に、予測を上回る米国の成長は、地域経済にプラスの波及効果をもたらす可能性がある。

世界経済見通しのダウンロードはこちらから: <https://www.worldbank.org/gep>.

## 東アジア・太平洋地域国別予測

(脚注マークなければ前年比割合変化：単位%)

2021 2022 2023e 2024f 2025f 2026f

市場価格ベースGDP (2010-19年の米ドル平均値換算)

カンボジア	3.0	5.2	5.4	5.8	6.1	6.4
中国	8.4	3.0	5.2	4.8	4.1	4.0
フィジー	-4.9	20.0	8.0	3.5	3.3	3.3
インドネシア	3.7	5.3	5.0	5.0	5.1	5.1
キリバス	8.5	3.9	4.2	5.6	2.0	2.1
ラオス	2.5	2.7	3.7	4.0	4.1	4.1
マレーシア	3.3	8.7	3.7	4.3	4.4	4.3
マーシャル諸島 <sup>a</sup>	1.0	-0.6	3.0	3.0	2.0	1.5
ミクロネシア連邦 <sup>a</sup>	3.0	-0.9	0.8	1.1	1.7	1.1
モンゴル	1.6	5.0	7.1	4.8	6.6	6.3
ミャンマー <sup>a,b</sup>	-12.0	4.0	1.0	1.0	..	..
ナウル <sup>a</sup>	7.2	2.8	0.6	1.4	1.2	1.0
パラオ <sup>a</sup>	-13.4	-2.0	0.8	12.4	11.9	3.5
パプアニューギニア	-0.8	5.2	2.7	4.8	3.1	3.0
フィリピン	5.7	7.6	5.6	5.8	5.9	5.9
サモア <sup>a</sup>	-7.1	-5.3	8.0	5.5	3.5	2.7
ソロモン諸島	-0.6	-4.1	1.9	2.8	3.1	3.0
タイ	1.6	2.5	1.9	2.4	2.8	2.9
東ティモール	2.9	4.0	2.1	3.4	4.0	3.8
トンガ <sup>a</sup>	-2.7	-2.0	2.6	2.5	2.2	1.6
ツバル	1.8	0.7	3.9	3.5	2.4	2.2
バヌアツ	0.6	1.9	2.5	3.7	3.5	3.1
ベトナム	2.6	8.0	5.0	5.5	6.0	6.5

出典: 世界銀行

注: e = 推定値; f = 予測値. 世界銀行の予測値は新たな情報と、(世界的な) 情勢変化を基に頻繁に更新される。その結果、このリリースで掲載された予測値は、他の世界銀行の文書に含まれた同じ国のほぼ同時点の予測値と、その国の見通しに関する基本分析がそれほど違わずとも、異なる場合がある。

a. 会計年度ベース数値

b. ミャンマーの2024年度(2025年3月終了)以後の会計年度の予測値は、不確実性が高いため除外